



## ホベツアラキリュウ荒木標本（最初に発見された標本）の

### 穂別博物館への寄贈

#### 標本寄贈のポイント

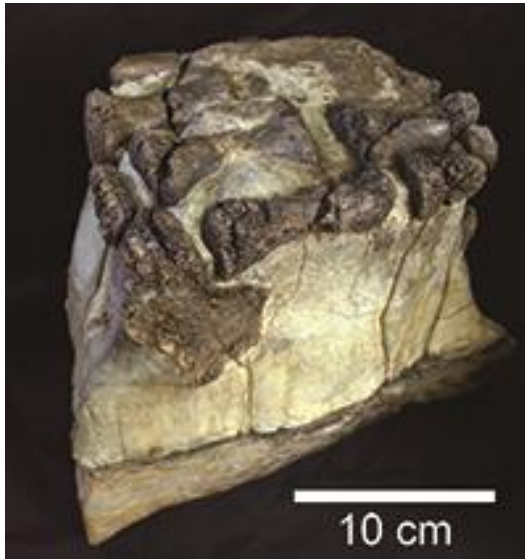
- ・国内有数の首長竜全身骨格 HMG-1(愛称 ホベツアラキリュウ、ホッピー)のうち、最初に発見され、荒木新太郎氏が保有していた標本が穂別博物館に寄贈された。
- ・むかわ町穂別の化石・古生物を用いたまちづくりの契機となった化石標本が公的な機関に寄贈されることは、この地域の歴史を記録する上で重要である。

#### ホベツアラキリュウ荒木標本寄贈の概要

##### 発見の歴史的背景

1975年6月に穂別町(当時)に在住の荒木新太郎氏がアンモナイト化石を探している際に、骨化石(今回寄贈されたもの、ホベツアラキリュウ荒木標本)を長和(おさわ)地区の沢の源流で発見し採集しました。採集した以外にも、周囲に骨化石の残りが埋没している可能性がありました。

1977年2月に、この標本が首長竜のヒレにあたるのが国立科学博物館の研究者によって指摘されました。穂別町はこの標本を地元に残したいと考え、発見者の荒木氏は残りの化石が埋没している場所を教え、この場所を穂別町町民などで結成された発掘調査団が発掘し、全身骨格を採集しました。その後、この標本は3年半の期間をかけてクリーニングされ、頭・頸部を除いた全身の大部分が確認されました。これを基に制作された全身復元骨格が穂別町立博物館開館(1982年7月)直後の1982年11月に展示されました。この首長竜は愛称としてホベツアラキリュウまたはホッピーとよばれ、化石の里;むかわ町穂別の中心的な存在となっています。



ホベツアラキリュウ荒木標本



荒木新太郎氏（左 発見当初，右 2015 年）



ホベツアラキリュウ全身復元模型

荒木氏が最初に発見した標本については、荒木氏の手元に残すという約束で、発掘などが進められたので、今日までその標本は荒木さんの手元にありました。

### ホベツアラキリュウの研究

ホベツアラキリュウについては1985年に予察的な報告がされ、1989年に正式な学術論文が日本古生物学会欧文誌で発表されました。この研究でホベツアラキリュウは長頸竜亜目、プレシオサウルス上科、エラスモサウルス科であることが判明しましたが、属種は不明（属名や種名が決定できない）とされました。

### ホベツアラキリュウの研究論文

仲谷英夫, 1985: 北海道穂別町より産出した長頸竜化石 (HMG-1) について (予報). 穂別町立博物館研究報告, 第2号, p. 43-49, 図版1.

Nakaya, H., 1989: Upper Cretaceous elasmosaurid (Reptilia, Plesiosauria) from Hobetsu, Hokkaido, northern Japan. *Transactions and Proceedings of the Palaeontological Society of Japan, New Series*, No. 154, p. 96-116.

### ホベツアラキリュウ荒木標本寄贈の重要性

穂別町は文化がないとまで言われていましたが、この発見を契機に化石・古生物を用いたまちづくりが行われ、町中に古生物のオブジェが置かれるようになりました。また町立博物館を建設し維持してきたことで、町内、国内だけでなく海外まで影響を与える調査・研究が行われるようになりました。こうした契機となる標本が穂別博物館に寄贈されることは、「化石の里」や「恐竜化石の郷（さと）」などの、まちづくりを進める上で大きな意義があります。また、この標本が寄贈されることは、むかわ町穂別の歴史を記録する上でも重要なことです。

標本はヒレにあたる部分であり、これまでの研究で欠けていた一部であることから、これを補完することで古生物としての首長竜の実態がより正確に明らかになります。

### ホベツアラキリュウ荒木標本の取り扱い

標本は7月5日（日）まで穂別博物館ホールで展示します。その後、レプリカを制作した上で、クリーニング作業を行います。

### 関係者からのコメント

#### ● ホベツアラキリュウの研究をされた仲谷英夫先生（鹿児島大学 教授）

1975年に発見された荒木さんの標本が博物館に寄贈されることによって、1977年に発掘されたものと同じ個体（ホベツアラキリュウ）として研究できるようになったことは、穂別の首長竜が、本当の意味でホベツアラキリュウの名にふさわしいものになったと感慨が深いものがあります。今後、穂別地域の脊椎動物化石の研究が盛んになっていくことを祈っております。

#### ● 首長竜の専門家 佐藤たまき先生（東京学芸大学 准教授）

ホッピー（ホベツアラキリュウ）は日本の首長竜研究における教科書のような存在であると同時に、更なる研究によって新しい情報をもたらす可能性を持つ貴重な標本です。今回の標本が寄贈さ

れることによって、ホッピーは今後もますます古生物学や首長竜研究の発展に貢献してくれること  
でしょう。

お問い合わせ先

むかわ町立穂別博物館 学芸員 西村 智弘（にしむら ともひろ）

TEL: 0145-45-3141 FAX: 0145-45-3141 E-mail: [tnishimura@town.mukawa.lg.jp](mailto:tnishimura@town.mukawa.lg.jp)